

上宮寺通信

第六十三号

悪人正機の教え

今月28日は浄土真宗の開祖・親鸞聖人のご命日にあたります。

親鸞聖人が頭かにされた浄土真宗の教えといえ、教科書にも載るぐらい有名なものが「悪人正機」の教え。『歎異抄』に「善人なおもて往生をとぐ、いわんや悪人をや」とあるように、「善人が往生できるならば悪人であればなおさら往生できる」という意味の言葉です。

世間の常識でいえば、「悪人が往生できるならば善人であればなおさら往生できる」のほうが納得できます。

しかし、真逆のことを親鸞聖

人はいわれた。実際にこの悪人正機の教えを誤解して、「悪いことをすれば往生できるのだ」「善いことをする必要がある」と過激な方向に走る人もいたといわれます。

なぜ親鸞聖人は世間の常識とは真逆なことをいわれたのでしょうか。それは「浄土真宗の教えは阿弥陀仏の願い」にほかならないからです。

阿弥陀仏の願いからすれば、悪人こそが救いの目当て。だからこそ善人よりも悪人なのです。もつといえ、阿弥陀仏からみればこの世界に善人などいない、悪人ばかりなのです。

私たちの根底には我執といわれる「自分が一番かわいい」という心があります。

災害が起こった時、「被災地の助けになりたい」「一日も早く元の生活に戻るように応援したい」という心が沸き起こってくるのは自然なこと。その心から募金をしたり、ボランティアに出かけたりという行動はとても尊いものです。

しかし、私たちの心の片隅に「自分が被災しなくてよかった」という心があることも否定できません。そのような「自分を中心とする心」を持つ私たちは阿弥陀仏からみれば皆、悪人なのです。

どちらかというと言善人の部類にいるだろうと思っていた私に、実は我執を持つ悪人と知らされる。この気づきこそが阿弥陀仏の慈悲に包まれていること

になるのです。

悪人と知らされれば知らされるほど、阿弥陀仏の深い願いが私にかけられているといたたく。そこからお念仏を申さずにはおれない生き方となる。これが親鸞聖人の頭かにされた浄土真宗の教えです。

悪人正機の教えとは変わった教えではなく、阿弥陀仏の願いからみた教えなのです。

悪人正機とは？



◆行事案内

上宮寺の行事

報恩講

11月8日(水)

午前10時〜正午頃

法話 伊奈祐諦師

(西尾市安楽寺前住職)

※お斎(食事)、呈茶はございませんのでご了承ください。

本山報恩講団体参拝(日帰り)

11月24日(金)

東本願寺報恩講(速夜)参拝、

聖護院門跡 見学 他

参加費 一五、〇〇〇円

定員 30名(定員になり次第締切)

東本願寺 報恩講

11月21日(火)〜28日(火)

名古屋別院 報恩講

12月13日(水)〜18日(月)

修正会

1月1日(元旦)

午後2時〜

元旦の午後2時から本堂にて『正信偈』のおつとめをいたします。今回から恒例のビング大会を復活します。

なお、修正会にお参りできなくても、元旦の午後1時から本堂ならびに納骨堂を開放いたしますので、どうぞ年の始めに上宮寺にご参詣ください。

※甘酒、お抹茶のふるまいは中止させていただきます。



◆話題あれこれ

○10月11日に4年ぶりに雅楽の演奏会を行うことができた。たくさんの方に来場していただき、盛会のうちに終えることができました。

○11月8日に報恩講をおつとめします。報恩講は浄土真宗で一番大切な法要とされています。ぜひ皆様のご参詣をお待ちしています。

○インフルエンザが流行っているようです。新型コロナとともにご注意ください。

【雑感】

観光地の賑わいもイベントも新型コロナ前にすっかり戻った感があります。雅楽の定期演奏会も4年ぶりに復活。今回は舞人ではなく演奏者としての出演させていただきました。しかも龍笛の音頭(主笛)として。演奏会で音頭として吹くのは初めての経験で、始まる前はかなり緊張しました。笛に息を入れて音が鳴った時は少し安心。何年やっても最初のひと息は音が鳴るのかどうかとても心配になります。演奏会後にはちょっとした打ち上げ会。こちらも無事に復活しました。(住職記)

【発行】

真宗大谷派

上宮寺

昭和三十九年一丁目十九番十五号

☎052-871-0547

上宮寺公式アカウント



友だち登録をお願いします。